

いたいの山持ちの状態です。

最近の山林についての話題といえば、山の上方に立つ風車のことで、青山高原に20基、続いてその北の美里の上に8基立ち、また、その北の長野峠付近に計画されていて、「うちの山に立たんやろか。」「道が通るといいのになあ。」と風車建設で山林の買収を期待していることです。これぐらい山林に対する意欲・関心が薄らいできています。

2. 美里林研のこれまでの活動と現状

(1) 設立期からの活動

「美里林研」の創立は、昭和59年3月22日、会員35名でした。

創立の頃は、まだ会員の年齢も若く、いろいろな活動もしてきました。

枝打ち機械を使っての枝打ちの技術講習、会員所有の山林で優秀森林コンクールと表彰、子どもたちへの働きかけとして緑の少年隊の指導、小学校での森林講話、三角木馬を作成し寄贈、シイタケの菌打ちなどもやりました。研修も1泊で遠くの県外まで出かけていきました。

(2) 現会員の状況

創立時の会員は35名。平成12、13年ごろは45名ほどにも増えたのですが、その後は減り続け、23年たった今では30名です。

今では、会員の年齢も高齢化し、ほとんどが60歳、70歳代です。

林業経営に対する意欲も薄れ、県や森林組合の方の講話を聞くことや日帰りの視察研修、それに懇親会と親睦を大事にするような活動となっています。

昨年18年度は、少々活動を見直してみようということになり、よその林研の活動を参考にしようと「他林研（芸濃林研）との交流」を行いました。

また、子どもたちに森林の大切さや林業の技術を教え伝えていかなければと考え、「子どもたちの林業体験学習」の事業を行いました。

3. 子どもへの働きかけ

林業体験学習「山林を育てる」

(対象者——美里町内3小学校5年生34名)

(1) この事業を考えたのは

美里村の適切な学習林の購入によって

美里村が合併前に道路を新設するために土地を購入したとき、隣接する山林も合わせて購入しました。その山林が手入れの遅れた40～50年生のヒノキ林で、初めは、役場へ「村の山林としては見苦しい。林研で整備しましょうか。」といていたのですが、「ボランティアでしていただくのなら。」との返答で困っていましたが、よく考えてみると、その土地は、道のそばでたいした傾斜面でなく、子どもの実習をやったらと思い、役場や教育委員会も了解しました。

(2) 体験学習の目的、内容

将来の地域を担う子どもたちが地域の山林に興味を持ち、山林の仕事などを理解し、これからの山林の問題について考える力を育てることを目的に実施しました。

子どもたちの林業への関心の実態から

子どもたちの実態 体験学習に参加した5年生児童 34名

- うちの山林がある6名 ない15名 分からない12名
- その山を知っている5名
- 仕事を手伝った3名

このような実態でしたので市有林において

- 森林に関する講話
- のこぎりを使った間伐体験
- 間伐・枝打ちの見学

などを行うことにより、山林に取り囲まれている状況にありながら、スギとヒノキの区別もできないなど、山林・林業への関心の低さを何とか高めたいと考えました。

(3) この計画をすすめるに当たって

いろいろなことに出くわしました。

学校側の問題→多忙と関心の薄さ

学校側は、校長先生は了解しましたが、担任の先生は、ハチ、ママシ、怪我、多忙が問題となり、結局、関心の低さを感じました。対象も中学校（職場体験・技術科）→小学校6年生→5年生（社会科）と変化しました。

林研グループ側の問題→会員の高齢化

林研側は、以前林研として学校へ出かけ、講話や三角木馬製作やシイタケの菌打ちをした経験もありますが、自分たちの高齢化、子どもの安全が問題となり、結局、こちらで日を決めて少し強引に実施しました。

よかった事は、子どもたちが倒した木を玉切りする計画が、担任の意見で間伐になったこと。森林組合職員の協力が得られたことでした。

(4) 子どもの感想文

- 今日、林業体験がありました。

最初に話を聞きました。その話の中でヒノキとスギの違いや山の仕事などを教えてもらいました。

次に実際に森の木を間伐しました。「のこぎりは大きくゆっくり使う。」と教えてもらって、ぼくは一人で2本切りました。間伐が終わってお茶をもらいました。

のこぎりの切り方や森についていろいろ教えてもらって楽しかったです。

マイクロバスに乗って山へ行きました。安全のため、ヘルメットをかぶって、のこぎりでいびつな形の木や細い木を切りました。切っているとき、ヒノキの木のすごいにおいがしました。

今日の林業体験はおもしろかったです。

- きょう、林業体験をしました。わたしは、山へあまり行ったこともありませんし、林業体験するのは初めてでした。体験するまでは、楽しいとは思いませんでしたが、やってみて、のこぎりを使って切って

みると、何だか楽しくなってきた2本半ぐらい切りました。のこぎりを入れて引く感触がすっきりしていて、いい経験をしたなあと思いました。

それに、わたしは、林業の仕事をしている人に話を聞いて、スギとヒノキの区別をつけたいなあと思いました。また、森の木は、家を建てたり、机・タンス・ベットとかを作る物に利用するし、木って空気をきれいにするし、森の木はすごく大切な役割をしているんだなあと思いました。

それに、木を切るとき、切り込みを入れてから反対の方に切るのは初めて知りました。

(5) 成果と今後の取組み

作文にみられるように子どもたちの山林に対する意識・関心は多少向上できたのではないかと思います。家庭に対してこの活動への参加と家庭での話し合いを呼びかけました。(母親が2名参加)

昨年、行ったこの「山林体験学習」事業は、間伐できる市の山林がまだ残っており、あと3、4年は続けていきたいと考えています。

私は、自分のうちの山に行くと、いつも「大きくなっていくなあ。先祖のお陰だ。もっと育ってくれよ。」と喜びを感じるのですが、この「体験学習」に参加した子どもの親たちはさほどうちの山の愛着はなさそうです。まして、その子たちになってくると、関心のないのは当たり前かもしれません。

今、私の地域の林業を支えているのは、60歳ぐらい以上の高齢者です。私たちがしっかりと山林の役割、山のよさ、喜び、山仕事の技術などを若い者たちに、未来の子どもたちに伝えていきたいものです。